

東邦大学学術リポジトリ



OPAC

東邦大学メディアセンター

タイトル	山ニ純一教授送別の辞
別タイトル	Ferewell Professor Junichi Yamazaki
作成者（著者）	池田, 隆徳
公開者	東邦大学医学会
発行日	2015.06
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 62(2). p.90 90.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	退任記念
著者版フラグ	publisher
JaLDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.62.90
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD18676462

山崎純一教授送別の辞

池田 隆徳

東邦大学医学部内科学講座循環器内科学分野（大森）教授

山崎純一教授が、平成27年3月31日をもちまして東邦大学医学部内科学講座循環器内科学分野（大森）教授を定年退任なされました。教授職としてのご定年退任にあたり、まずは心からお祝いと感謝の意を申し上げます。

山崎先生とは、平成23年4月に小生が東邦大学に復職してからのお付き合いとなりますが、退任するまでの4年間を東邦大学医学部内科学講座循環器内科学分野（大森）の同門として一緒に過ごすことができましたことを、大変うれしく思っております。山崎先生の輝かしい経歴について小生なりに振り返ってみたいと存じます。

山崎先生は、平成10年に東邦大学医学部第1内科の教授にご昇進なされました。診療においては、平成14年に発足した東邦大学医療センター大森病院循環器センター内科の設立において、旧第1内科、旧第2内科、旧生理機能検査部の循環器グループを統合し、診療科の発足にご尽力なされました。また、平成18～21年までの3年間は東邦大学医療センター大森病院の院長として大学病院全体の運営にご奉職なされました。診療報酬の削減などもあって経営面でご苦労されたとお聞きしておりますが、持ち前のパワーで乗り越え、平成25年の雑誌社調査による「頼れる病院ランキング」で、東邦大学医療センター大森病院が東京都で第1位になることができた礎を先生が築かれたと思っております。平成24年からは学校法人東邦大学の学長にご栄転なされ、現在は医学部だけでなく、薬学部、理学部、看護学部の4学部を学術面で舵取りをなさる大学トップの要職に就かれております。このようなご出世は当教室の誇りであり、小生をはじめ教室員一同、先生の現在のご活躍を大変光栄に思っております。2年後には習志野キャンパスに新設の健康科学部ができると聞いております。学長として思う存分手腕を発揮していただき、東邦大学を栄えある医療系の大学へさらに押し上げていただけるものと確信しております。

研究面におかれましては、山崎先生は循環器内科のなかの心臓核医学をご専門になされ、この領域で数多くの業績

を残されました。心臓核医学に関連したテーマで、多くの医局員の学位（医学博士）論文のご指導をなされました。平成22～24年まで日本心臓核医学会の理事長にご就任なされ、また複数の国内の関連学会で理事として画像診断の進歩にご貢献なされました。インパクトファクターの高い核医学系の学術誌として知られるEuropean Journal of Nuclear Medicine and Molecular ImagingのAssociate Editorも長らくお務めになられております。この領域の学問の発展において多大な功績を残されたことは言うまでもなく、われわれ医局員にとって大変名誉なことでございます。

先生もご存じのように、3年前に東邦大学医療センター大森病院で循環器内科を専攻している現役医師と、大森にあった旧第1内科、旧第2内科、旧生理機能検査部で循環器内科を学ばれたOB・OGが集まって、TOCU (Toho Omori Cardiovascular Union) と称する同門会を小生が中心となって発足させていただきました。ぜひ、毎年ご参加していただき、現役世代、そして地域でご活躍中のOB・OGを大所高所から激励していただければと存じます。また、平成24年に講座が改変され、現在は大森病院、大橋病院、佐倉病院の循環器内科が、東邦大学医学部内科学講座循環器内科学分野という名称で、いわば1つになっております。それぞれの病院の循環器内科のアクティビティと強みを生かしつつ、東邦大学循環器内科が丸となって邁進することを後押ししていただければ幸いです。

この度、教授職としてご退任なされたとはいえ、今後も東邦大学の学長として大学全体を教育面で先導していかねなければなりません。先生のお力で東邦大学の名を全国に知らしめて欲しいと切に願っております。しかしながら、健康あつての物種でございます。くれぐれも体調にはご留意していただければと存じます。

改めて、先生のこれまでのご活躍に感謝し、今後のますますのご発展をお祈り申し上げ、送別の辞にかえさせていただきます。本当にありがとうございました。